

【編集後記】

▼今年度は八布教ハンド・ブックⅢ「現代の伝道」▽編の編集が遅延し、また八布教のための教養シリーズ・第四集「伝道のための面接技術」▽も「所報」と同時発刊ができなかった。宗門各聖に対しておわび申しあげなければならぬ。しかし「所報」2号は昨年度より論稿もふえ、わずかながら内容を充実させ得たと考えている。

▼「現宗研」の今年度のもっとも大きな仕事は「宗義大綱解説」の完成であった。茂田井所長の御努力によって原案が作成され（その八原案▽が一部に流布されて混乱を招いたが）更に討議を重ねて書き改められた。その間の茂田井所長の御苦心は文字通り身をけずるものであったと拝察する。

▼久保田正文前所長が突然辞任され、後を引き継がれた茂田井所長は、今年度でその任期を了えられ、主任以下それに従うことになる。研究部・調査部の双方とも、継続していくべき計画を残してはいるが、一応今年度をもって段落をうち、次の体制に委ねられることになった。「現宗研」の新しい体制によって一層活動が強化され、その業績をもって本宗の礎に埋められんことを――

▼「宗義大綱」を完成され、さらに「解説」の文が茂田井先生の下で討議されているさなか、完成の日を心待ちしておられたという望月歆厚先生が逝かれた。本誌においては生きた八宗学▽を現代に顕現させんと、意を新たにされた茂田井所長の、その決意の文字をもって追悼にかえた。望月歆厚先生、霊山より加護賜わらんことを祈る。

（丸山記）

所 報 No. 2

昭和43年3月5日 印刷
昭和43年3月10日 発行

編 集 現代宗教研究所
所長 茂田井 教 亨
発行所 日蓮宗宗務院
東京都大田区池上1-32-15
電 話 東京 (751) 7181 (代)
印刷所 大 宣 堂 印 刷
宮 田 如 竜
甲 府 市 中 央 1 丁 目 12-31
電 話 甲 府 (0552) ② 3602番

頒 価 ￥ 300

「所報」第二号 昭和四十三年三月十日発行・現代宗教研究所編・日蓮宗宗務院刊